

児童発達支援ガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 3名回答、回答率 100%

保護者様： 20名回答、回答率 90%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・教室の環境面の質問に対して、半数が「適切である」、半数が「どちらとも言えない」と回答をしていた。教室の広さを考慮し、時間枠の受け入れる最大人数を常時検討している。
- ・毎日の掃除は徹底しているが、トイレや水道付近は清潔感に欠けていたり暗い雰囲気があるため、清潔感のある環境づくりの工夫が必要である。

○業務改善

- ・話し合う時間に限りはあるが、情報共有や支援の方向性の統一のため、職員全体でのミーティングや教室内研修、ケース検討に取り組んでいく必要がある。
- ・指導員の支援の質の向上の為、社内での階層別の研修に参加している。

○適切な支援の提供

- ・日々のミーティングを通して支援に関する意見や子どもの様子等を話し合い、個別支援計画の5領域の目標に沿って支援内容や療育の進め方を検討している。
- ・お子様の年齢や課題に合わせて、個別・小集団・集団のプログラムを検討・実施している。

○関係機関や保護者との連携

- ・フィードバック後の時間を使って保護者様とお子様の様子について共有し、現在の状況に合わせた支援をその都度検討している。
- ・必要に応じて担当者会議への参加や園訪問を実施し、関係機関で統一した支援の提供ができるよう心掛けている。また、モニタリングについても定期的に相談支援員と連携し、教室の様子を見学に来ていただいている。

○保護者への説明責任等

- ・契約書類に関しては契約時に説明を行い、同意を得ている。
- ・日々のフィードバックを通して支援の内容やお子様の様子をお伝えし、保護者の方から相談があった際には助言をしたり、ご家庭や教室で出来る対応をお伝えしている。

○非常時等の対応

- ・緊急時対応マニュアルの作成をしている。
- ・毎月避難訓練週間を設けることで、どの曜日を利用していても毎月避難訓練に参加できるような工夫をしている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・教室のスペースが十分に確保されているか、生活空間の構造化がされているかの質問について、8割以上の方から「はい」とご回答いただき、「粗大運動、微細運動の場所がそれぞれ確保されている為、子どもたちが切り替えられている様子が見られる」とのご意見をいただいた。
- 一方で、「運動スペースがもう少し広い方が良い」といったご意見もいただいた。
- ・法令上の基準人員の配置は行っているが、「理学療法士や言語聴覚士に訪問をしてほしい」「職員を増やしてより個別での対応をしてほしい」といったご要望をいただいた。

○適切な支援の提供

- ・「こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられているか」という質問に対して100%の方から「はい」と回答をいただいた。一方で「利用者それぞれでなく、みんな同じ対応になってる感じがある」とご指摘もいただいた。
- ・事業所の活動プログラムに関して「週ごとにテーマが変わって良い」とのご意見をいただいた。

○保護者への説明等

- ・「日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか」の質問に対し、「毎回フィードバックを通してその日の様子を教えていただけるので安心している」とのご意見をいただいた。

○非常時等の対応

- ・「非常災害の発生の備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか」という質問に対して、「はい」と回答した方が75%だったが、「わからない」「いいえ」との回答もいただいた。実施した訓練の内容について、ご利用者の方への周知を工夫する必要がある。

○満足度

- ・「こどもは通所を楽しみにしているか」「事業所の支援に満足しているか」という質問に対し、85%以上の方から「はい」と回答をいただき、「ソリスに行くよと声掛けると指導員の方の名前が出るほど楽しみなよう」や「細かい配慮もしていただいているありがたい」とのご意見をいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・保護者会を1年間に1回開催し、その中で保護者同士の連携を支援する。
- ・指導員は個別支援計画に沿った支援を提供しつつ、多彩な内容でのプログラムを提供する様に心がける。
- ・年度替わりなどの際に、同じ年齢や発達段階のグループ分けをできるように枠によって調整を行う。
- ・教室スタッフ間で教材の案を出し合い、教材のバリエーションを増やしていけるようにする。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・同じ年齢等でグループ分けをして枠の調整ができた為、それぞれにあった支援が提供できた。
- ・スタッフ間でアイデアを出し合い、教材や活動を増やしていくことができた。一方で、支援の統一という視点で情報共有に不足があったため、ミーティング等をこまめに行っていきたい。
- ・保護者会は開催に至らなかった。来年度以降に実施し保護者同士の連携を支援したい。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・子どもの特性に合わせた支援の提供ができています。
- ・日々の支援後のフィードバックの実施や保護者とのコミュニケーションにより、情報共有がしやすい環境になっている。
- ・毎月のプログラムが固定化されず、様々な内容の提供ができています。
- ・児童が安心感をもち、楽しんで通所することができています。

○改善点

- ・避難訓練を毎月実施しており、非常災害時のマニュアルも作成しているが、保護者の方に知っていただく機会が少ない。周知方法を工夫する必要がある。
- ・環境整備の一環として、トイレや手洗い場付近の清掃をより丁寧に行い、清潔で過ごしやすい環境を保つ。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・トイレや訓練室の衛生環境を清潔に保ち、改善できる箇所の改善を行う。
- ・保護者参加型の療育参観や保護者会を実施する。
- ・児童のみではなく指導員のみでの訓練を実施し、非常災害時の備えを強化する。

○1年間で取り組む具体策

- ・月に1回クリンネス活動を行い、教室の清潔さを保つようにする。
- ・災害時等の避難場所について、掲示だけでなく、避難訓練などを行った際のフィードバックでも再度直接お伝えすることで再周知を図る。また、避難訓練を実施した際の内容についても丁寧にお伝えしていく。
- ・事務的な業務や子どもの支援や様子について、ミーティング内で全体共有を行い、教室スタッフ間での連携を強化していく。
- ・保護者会や療育参観の時期を調整し、保護者の方が参加しやすいように配慮する。